

ニンジン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	斑点病	黒葉枯病	菌核病	うどんこ病	しみ腐病	根腐病	(リンクトニア菌) 苗木立枯病	白絹病	斑点細菌病	軟腐病
I Cボルドー66DFL	M1	-	-	-	◎									
Zボルドー水	M1	-	-	-	◎									
クプロシールドFL	M1	-	-	-	◎	◎								
コサイド3000DF	M1	-	-	-	◎									
スターナ水	31		7	3									◎	◎
アフエットFL	7		7	3	◎	◎	◎	◎				◎		
カンタスDF	7		14	3	◎	◎								
パレード20FL	7		1	3		◎								
ストロビーFL	11		7	3	◎	◎								
ファンタジスタ顆水	11		3	3	◎	◎	◎	◎						
メジャーFL	11		3	3		◎						◎		
フロンサイド水	29		14	3		◎								
セイビアーFL20	12		7	3			◎							
スミレックス水	2		30	1			◎							
ロブラール水	2		14	4	◎	◎								
リゾレックス水	14		*b	1						灌	灌			
			14	1						◎				
リゾレックス粉	14		*a	1						◎				
トリフミン水	3		1	3				◎						
ポリオキシシリンAL水	19		7	5		◎								
アリエッティ水	P7		7	3		◎								
キノンドーFL	M1		3	5		◎								
ヨネポン水	M1		7	4	◎	◎		◎						
ペンコゼブ水	M3		7	3		◎								
ダコニール1000FL	M5		7	5		◎								
ベルコートFL	M7		14	5	◎	◎	◎	◎						
ユニフォーム粒	4・11		*a	1					◎	◎		◎		
シグナムWDG	7・11		14	2	◎	◎		◎						
アミスターオブティFL	11・M5		21	2	◎	◎	◎	◎	◎					
カスミンボルドー水	24・M1		7	2		◎							◎	◎

*1:根を収穫するもの

葉を収穫利用する場合には、「ニンジン」の登録農薬は使用できない。
「野菜類」、「ニンジン(葉)」で登録のある剤を使用する。

*a:播種前 *b:播種時

灌:全面土壌灌注

ニンジン

ニンジン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ク ロ バ ネ キ ノ コ バ エ 類	キ ア ゲ ハ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ 類	ゾ ウ ム シ 類	ホ モ ノ ハ ダ ニ	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ	ネ グ サ レ セ ン チ ュ ウ
スピノエース顆水	5		3	3	◎										
バイデートL粒	1A	劇	*a	1										◎	◎
ダイアジノン粒5	1B		*a	1							◎				
ダイアジノン粒10	1B	劇	*f	2							◎				
トクチオン細粒F	1B		21	2								ヒ			
ネキリエースK粒	1B		*d	4							◎				
ネマキック粒	1B		*a	1										◎	◎
ネマトリンエース粒	1B		*a	1										◎	◎
マラソン乳	1B		14	4	◎			◎				ヤ			
アグロスリン乳	3A	劇	7	2					◎						
ガードバイトA粒	3A		*b	5											
フォース粒	3A	劇	*c	1							◎				
			*a	1		◎					◎				
ペイオフME液	3A	劇	14	1					◎						
アドマイヤー顆水	4A	劇	3	2	◎										
アルバリン顆溶			7	2	◎										
スタークル顆溶	4A		*e	1		◎						ト			
アルバリン粒															
スタークル粒	4A		*c	1		◎									
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3	◎			◎							
ディアナSC	5		1	2						◎					
アフーム乳	6		1	3		◎				◎			◎		
ネマクリンFL	7		*a	1											◎
ビーラムプライムFL	7		*a	1											◎
コテツFL	13	劇	1	2				◎	◎			ヒ			
カスケード乳	15		3	2			◎		◎						
ロムダンFL	18		1	2				◎	◎						
アクセルFL	22B		1	3						◎		ヒ			
アクセルバイト粒	22B		1	3						◎	◎				
フェニックス顆水	28		1	2					◎						
ベネビアOD	28		1	3	◎			◎	◎	◎					
プレオFL	UN		1	2						◎					
ビーラム粒	-		*a	1										◎	◎
ランダイヤ粒	1A・1B	劇	*a	1			◎				◎				

*1:根を収穫するもの

葉を収穫利用する場合には、「ニンジン」の登録農薬は使用できない。
「野菜類」、「ニンジン(葉)」で登録のある剤を使用する。

*a:播種前 *b:生育初期(但し収穫7日前まで) *c:播種時

*d:発芽期~生育初期(但し収穫14日前まで) *e:生育期(但し収穫21日前まで)

*f:播種時及び生育期(但し収穫90日前まで)

ト:トビロヒョウタンゾウムシに生育期の株元灌注処理での登録

ヒ:ヒョウタンゾウムシ類 ヤ:ヤサイゾウムシ

ニンジン(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	春まき						—					
	黒葉枯病				—	—	—					
	うどんこ病						—	—				
	夏まき										—	—
虫害	黒葉枯病					—	—			—		
	うどんこ病						—	—		—	—	
	アブラムシ類					—	—			—		
	キアゲハ					—	—			—		
ヨトウムシ					—	—			—	—		

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒葉枯病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 敷わらをするか又は灌水を行って乾燥を防ぐ。 2. 肥料切れすると発生しやすいので追肥は遅れないようにする。 3. 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 ポリオキシシンAL水和剤 500倍 ポリバリン水和剤 1500～2000倍 ロブラール水和剤 1000～1500倍 	干ばつ、肥切れは発病を助長する。 ニンジンには本病と同属異種の菌による「黒斑病」も発生する。黒斑病は、主に根や苗に発生する。種子では不発芽、幼苗期には立枯れを、生育期には根、葉、花梗、花などをおかし、さらに貯蔵中には根の腐敗をおこす。
	収穫期	・収穫の際には根に傷をつけないように注意して掘り取る。	
	収穫後	・収穫後畑に残った枯葉や被害株は除去する。	
斑点病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 敷わらをするか又は灌水を行って乾燥を防ぐ。 2. 肥料切れすると発生しやすいので追肥は遅れないようにする。 3. 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビーフロアブル 3000倍 ロブラール水和剤 1000～1500倍 	干ばつ、肥切れは発病を助長する。
軟腐病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スターナ水和剤 1000倍 カスミンボルドー(水) 1000倍	
紫紋羽病	播種前	・土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	本病は多犯性で各種野菜や果樹に発生する。

ニンジン

ニンジン(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤー顆粒水和剤 10000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍	
ハモグリバエ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍	
キアゲハ	生育期	1. 老齢幼虫は捕殺する。 2. 発生が多いときは次の薬剤を散布する。 マラソン乳剤 2000～3000倍	
ヨトウムシ	生育期 (5～6月、 9～11月)	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 エコマスターBT* 1000倍 エスマルクDF* 1000倍 カスケード乳剤 4000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、早期に防除する。 *野菜類での登録
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT* 1000倍 サブリナフロアブル* 500～750倍 プレオフロアブル 1000倍	*野菜類での登録
ネコブセンチュウ	播種前	1. 作付予定地は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 土壤くん蒸剤以外には次の薬剤があるので、いずれかを全面土壤混和する。 ネマトリンエース粒剤 15～20kg/10 a バイデートL粒剤 20～50kg/10 a	
ネグサレセンチュウ	播種前	1. 作付予定地は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 土壤くん蒸剤以外には次の薬剤があるので、いずれかを全面土壤混和する。 ネマキック粒剤 10～15kg/10 a ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a バイデートL粒剤 20～50kg/10 a	

ニンジン